



「紺紙金字法華経 卷五」(百濟寺蔵)

仏教信仰の根幹をなす写経に施された装飾について、特に平安時代に描かれた法華経写経の見返絵を軸に視点を広く東アジア全体に広げ、なぜ日本は強い規範性を持っていた大陸の写経版経装飾から離れ、独自の形式を展開させたのか、その意義を明らかにする。多くの図版に加え、経絵研究にとって重要な基礎データとなる「平安時代金字写経記録(324件)」と、東アジアの写経237件を一覧した「写経紙高法量表」を付表として収録する、国華賞受賞論文を含む、永年にわたる研究成果。

法華経写経とその荘嚴

須藤弘敏

中央公論
美術出版

A5判(一四五×二二〇mm)上製函入 カラー口絵八頁 本文二九二頁

本体価 二一、〇〇〇円 + 税

ISBN978-4-8055-0740-7 C3071

序

第一章 再論・写経と荘厳 東アジアにおける日本写経荘嚴の特質

- 一 東アジア各地における写経版経の装飾／二 日本における写経装飾／三 東アジアにおける日本の装飾経／四 経巻即仏信仰と法華八講／五 一品結縁経／六 料紙装飾／七 経巻の芸術／八 狭義装飾経確立の背景／結び

第二章 平安時代の定型経巻見返絵について

- はじめに／一 平安時代の経巻見返絵とその定型／二 定型見返絵の形成／三 十二世紀中葉の基準作例／四 経巻見返絵の類型化／結び／補記

第三章 古代東アジアの経絵 延暦寺蔵紺紙銀字法華経をめぐる

- はじめに／一 研究の状況／二 古代東アジアの経絵／三 延暦寺蔵紺紙銀字法華経／四 本興寺八巻本金字法華経とHoller氏本法華経見返絵について

第四章 転写と伝承 延暦寺銀字本・仁和寺本系紺紙法華経について

- はじめに／一 仁和寺蔵紺紙金字法華経／二 仁和寺本と各本の関係／三 延暦寺の秘宝法華経／結び

第五章 経絵に映る宋と日本

- はじめに／一 十三世紀までの東アジアにおける経絵／二 クリーヴランド本およびスペンサー本「紺紙金字法華経」の概要／三 クリーヴランド本およびスペンサー本「紺紙金字法華経」の見返絵／四 クリーヴランド本・スペンサー本の特異性と宋本金字法華経伝来の可能性／結び

第六章 一字連台法華経勸発品見返絵について

- はじめに／一 見返絵の情景／二 法会の絵画化／三 経絵と物語絵巻／結び

第七章 荘嚴と寓意 流水片輪車時絵螺鈿経箱をめぐる

- 一 車輪と蓮華／二 車輪と法輪／三 荘嚴される空間／四 経箱供養／結び

初出一覧／付表／あとがき

著者略歴

須藤 弘敏 (すどう・ひろとし)

1954 年青森県弘前市生まれ。1976 年東北大学文学部卒業、1978 年東北大学大学院文学研究科博士前期課程修了。1978 年より東北大学助手を務め、1982 年に弘前大学講師、1985 年弘前大学助教授、1998 年 弘前大学教授 現在に至る
著書に『絵は語る 3 高野山阿弥陀聖衆来迎図—夢見る力—』平凡社 1994 年／『日本の古寺美術 19 中尊寺と毛越寺』(岩佐光晴と共著) 保育社 1989 年／『かわいい仏像 たのしい地獄絵—素朴の造形—』(矢島新と共著) PIE INTERNATIONAL 2015 年

関連書籍

仏画の尊容表現

泉 武夫 著

B5 判上製函入 本文 428 頁 口絵 28 頁 挿図 216 点

本体価格 30,000 円＋税

日本絵画史の中でも最盛期の一つをなす平安から鎌倉時代にかけて制作された仏画を対象として、その表現の諸相を分析し、作品の特色、属性、様式史的現象を浮かび上がらせ、総合的理解に至ろうとすることで、仏画に描き出された尊容の表現史を論じる。

ISBN978-4-8055-0635-6

仏教美術史論

百橋 明穂 著

B5 判上製函入 本文 462 頁 口絵 8 頁 挿図 431 点

本体価格 24,000 円＋税

仏教美術研究における説話美術に着目して、中国大陆、朝鮮半島、わが国の様々な作品を比較検討し、伝播と発展の過程を明らかにし、その根本的な特質を浮き彫りにする論集。さらに古代壁画、仏教美術史研究の図像と様式を詳述、東アジアの仏教美術にも論及する。

ISBN978-4-8055-0375-1

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1 IVY ビル 6F

Tel 03-5577-4797 Fax03-5577-4798

お取扱いは